

産地パワーアップ事業の取組事例

(北海道)

取組の概要

取組の概要 : 施設の再編合理化による施設運営の
コスト低減及び豆類有利販売の推進
計画作成主体 : 大空町農業再生協議会
対象品目 : 豆類 (産地面積: 3,716ha)
麦類 (産地面積: 2,744ha)
主な取組主体 : 大空町
成果目標 : 販売額の10%以上の増加
助成金の活用 : 整備事業 (穀類乾燥調製貯蔵施設)
状況

ポイント

穀類乾燥調製貯蔵施設の再編整備及び省力的な乾燥調製体制の整備により、製品の品質向上・安定やロットの確保が可能となり、販売額の約29%の増加を実現。



地区の概要



北海道
大空町、滝上町、湧別町、遠軽町、
佐呂間町、北見市、置戸町、訓子府町、
網走市、美幌町、津別町、小清水町、
清里町、斜里町

産地の現状と目標

現状: H26年度

- 作付面積 :
豆類3,701ha (出荷数量: 7,983t)
麦類2,726ha (出荷数量: 16,406t)
- 運営コスト: 豆類: 212,995千円
麦類: 170,348千円
- 豆類新品種: 1,971ha (53.3%)
販売額: 98千円/10a

目標: H30年度

- 作付面積 :
豆類3,716ha (出荷数量: 8,665t)
麦類2,744ha (出荷数量: 17,350t)
- 運営コスト: 豆類: 134,434千円
麦類: 172,059千円
- 豆類新品種: 2,729ha (73.4%)
販売額: 126千円/10a

推進体制

大空町、オホーツク管内農業協同組合、
北見農業協同組合連合会、ホクレン農業協
同組合連合会、北海道農業協同組合中央会
等が連携し、事業を推進。

地域における独自の取組

主な取組

- 豆類の新たな可能性に着目し、地元企業等との農商工連携により差別化商品を開発し、高付加価値化を図る。
- 東アジアを中心とするインバウンド需要への対応等による有利販売の推進。
- 町やJA等の農業関係団体の組織体による地域住民への就労機会の提供を通じた地域貢献の実施。

事業効果

施設の再編整備や乾燥調製体制の省力化による運営コストの低減
麦類、豆類の調製能力等が向上することにより、製品の品質向上・安定やロットの確保が可能となり、販売額の増加を図る。
このことにより、生産者の所得向上につながり、産地強化が図られる。

~ 豆類・麦類の販売額 (10aあたり) ~

